



## 効果的な初年次教育を探して ～「人間科学の基礎」の授業から～

人間科学部 谷島 弘仁



教育心理学を専門としている。最近では、児童や生徒への心理的支援だけでなく、友人・保護者・教師などへの効果的な関係者支援について研究している。また、コミュニティ心理学にも関心がある。2005年に文教大学に赴任した。

(やじま ひろひと)

最近、大学への適応の困難な学生が全国的に増加している。新入学生の大学への適応を促進するために初年次教育やレメディアル教育を充実させる大学が増加している。越谷校舎でも学生支援室が設置され、新たな支援の試みが始まっている。人間科学部における「人間科学の基礎」を事例として、どのような初年次教育が効果的なのかを検討した。

### 1. 「人間科学の基礎」の位置づけ

「人間科学の基礎」は人間科学部の学部教養科目であり、1年次（春学期）の必修科目である。各学科5クラス程度が設定されており、専任教員が担当している。1クラスを受講生は40名弱である。授業担当の教員が1年次生の担任となる。

「人間科学の基礎」は、大学教育および学部教育への導入教育としての機能を持ち、学生の居場所としてのクラス機能を期待されている。しかし、この科目の運営上、改善が必要な点も見受けられる。例としては、教員の相互理解に基づく授業内容の雛型や評価基準、共通のテキストがあるわけではないため、授業内容について担当教員間で差が生じやすいという点などである。初年次教育を充実させるためには携わる教員が自らの実践記録を報告し、相互に検討することが効果的である。そのため、「人間科学の基礎」の内容を検討することには意義があろう。

### 2. 「人間科学の基礎」に必要とされる内容とは

従来、臨床心理学科では「人間科学の基礎」を学科の教員ほぼ全員が持ち回りで担当してきたため、数年に一度の担当であった。そのため、科目に対する教員の意識が必ずしも高くなかったり、教員個人において授業のノウハウの蓄積が困難であるという課題もあった。最近では担当者全員ではないものの、担当者が固定化するようになってきている。

ところで、「人間科学の基礎」に求められる内容は、適応促進、スタディスキルズ、人間関係づくり、担任機能という4つの側面に大別することができると考えている。筆者が考えるそれぞれの側面の具体的な内容の例を表1に示した。適応促進には環境適応と心理的適応があり、環境適応は大学の仕組みの紹介や施設の紹介など、心理的適応は心理教育が含まれる。スタディスキルズは大学での学習について高校までとの比較を通して理解し、

方法を身につけることである。人間関係づくりは適応の中でも人間関係への適応を促進することが中心となる。担任機能は履修指導、資格取得や進路のガイダンスや個別面談、生活指導・相談などが主な内容である。半期科目である「人間科学の基礎」で、このように多岐に渡る内容をどのように配分するかが大切である。どの側面を重視するかは、学科によっても学生によっても様々であるが、なぜその側面を重視するのかについての理由を明確にすることが必要とされる。

表1 4つの側面の具体的内容例

適応促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の施設紹介および案内</li> <li>・大学生活についてのガイダンス</li> <li>・ストレスマネジメント等の心理教育</li> <li>・現状の把握と目標設定の指導</li> <li>・居場所づくり</li> </ul>
スタディスキルズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの取り方</li> <li>・文献検索方法</li> <li>・論文の読み方</li> <li>・レポート作成の方法</li> <li>・発表の仕方</li> </ul>
人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・エンカウンター等のグループワーク</li> <li>・クラス会議</li> <li>・グループ学習</li> <li>・メンター</li> </ul>
担任機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修指導</li> <li>・資格取得のガイダンスや個別面談</li> <li>・進路についてのガイダンスや個別面談</li> <li>・配慮の必要性の見極め</li> <li>・生活指導</li> </ul>

### 3. 実践事例から

これまでに筆者が昨年度に担当した「人間科学の基礎」の授業を振り返ってみたい。

臨床心理学科の学生の特徴として、まじめな学生が多いが内向的で適応に配慮が必要な学生も多く、学生相談室や学生支援室の利用が多い。公認心理師や臨床心理士の資格を目標としている学生の割合が極めて高いが、資格取得が目的化している者が見受けられるので、自分の適性やキャリア形成と関連づけて、再度考えさせる必要があると思われる。

そのため、大学への適応促進とスタディスキルズの習得を中心として、内容の一部に人間関係づくりを取り入れ授業を組み立てた。授業の具体的な内容を表2に示した。第1回～第5回を適応促進の期間として、大学生活に慣れることを中心とする内容とした。内容の一部にグループエクササイズを取り入れることにより人間関係づくりの促進も行った。ま

た、授業の時間割作成や資格については、適宜、個人面談を行った。第6回～第10回はスタディスキルズの基礎と位置づけ、大学で授業を受ける方法や課題の調べ方など基礎的な内容の習得を目標とした。部分的にグループエクササイズを取り入れた。第11回～第15回はスタディスキルズの応用と位置づけた。自分で調査課題を設定し、調査・分析を行った。ただし、昨年度は事情により、グループ調査と個人調査に分けた。個人調査を選んだ学生であっても、テーマの近い学生どうしで進捗状況を話し合う機会を設けた。最後に発表し、レポートを提出した。

それぞれの期間において学生に現状を把握させ、現状に応じた目標を設定し、目標の達成度を評価させた。学生の動機づけを高めるために目標設定を重視したのだが、学生のレポート等からは効果がうかがわれた。

以上、筆者が行った「人間科学の基礎」の事例を報告した。「人間科学の基礎」のような初年次教育科目は、担当者が独自に進めるよりも担当者が内容を相互理解し、連携して授業を行うことが必要とされる。そのためには、担当者が事例を持ち寄り、相互に検討することが必要であろう。本稿がその一助となれば幸いである。

表2 授業の内容

適応促進	第1回～第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・自己紹介エクササイズ</li> <li>・大学のシステムについての説明</li> <li>・施設案内（図書館、学習支援室等）</li> <li>・資格についての説明、個別面談</li> <li>・ストレスについての説明</li> <li>・リラクゼーション法の体験</li> <li>・目標設定方法の理解と実践</li> </ul>
スタディスキルズ基礎	第6回～第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の講義について</li> <li>・授業の受け方、ノートの取り方</li> <li>・文献の探し方、読み方</li> <li>・課題の調べ方とまとめ方</li> <li>・プレゼンテーションの仕方</li> <li>・図書館ガイダンス</li> </ul>
スタディスキルズ応用	第11回～第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査課題の設定</li> <li>・調査の実施（個人調査またはグループ調査）</li> <li>・調査結果の発表</li> <li>・レポートのまとめ方</li> </ul>